

## 2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 2 月 22 日作成)

委員会名	応用確率論小委員会	主 査 名：高田毅士
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (荷重運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：石山祐二
設 置 期 間	2003 年 4 月 ～ 2007 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	2003 年度：荷重指針改定、刊行後のフォロー 確率・統計、信頼性理論に関する研究推進 2004 年度：確率・統計、信頼性理論の普及と活用	
委員構成 (委員名 (所属))	高田毅士 (東京大学)、森保宏 (名古屋大学)、西谷章 (早稲田大)、井戸田秀樹 (名工大)、趙衍剛 (名工大)、高橋利恵 (前橋工科大)、日下彰宏 (鹿島建設)、高橋雄司 (建研)、大鳥靖樹 (電中研)、斎藤知生 (清水建設)、石川孝重 (日本女子大)、高橋徹 (千葉大)、今塚善勝 (大林組)、川合拓 (竹中工務店)、櫻村俊也 (竹中工務店)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2004 年度予算	140,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2004 年度に 5 回の委員会 (5/21(10), 9/8(10), 11/2(7), 1/21(6), 3/30(?))、括弧内数字は参加者人数) を行った。
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>毎回、各委員より確率論の応用に関連した話題提供を行い、委員相互の情報共有と情報交換を行っている。</p> <p>議論した内容は、地震リスクマネジメント (5/21)、原子力 PSA (9/8)、鋼構造の信頼性評価(11/2)、原子力施設のフラジリティ評価(1/21)である。</p> <p>また、各委員会では同時に、信頼性、確率論を他専門家、一般人に理解してもらうための刊行物の議論を行っており、おおむね、その構成、執筆方針を決めた。次年度以降は、刊行物作成の作業をする予定である。</p>
	委員会 HP アドレス：
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>刊行物の方針決定に対して遅れ気味であった。それ以外は予定通りの達成度と考えている。</p>
その他評価すべき事項	